

盤洲干潟(木更津海岸)の観察

報告者：大野幸正（活き活き東京湾研究会）

日 時：2024年5月23日（木）9：00～12：00 干潮時刻 10：40 天気 曇

場 所：盤洲干潟（新木更津市漁業協同組合の木更津海岸潮干狩り場）

今年の潮干狩り場は、平日で空いていました。風が弱くて、動きやすい天気でした。

今年の観察ラインも、アサリ放流がない囲い柵外側に設置して、久しぶりに850mくらい沖まで行きました。各観察地点（下図の赤印、50~100m 間隔）において熊手で掘り、手網で砂泥をふるいがけして底生動物の状況を確認しました。

潮干狩り場の係員の話では、潮干狩り場には、ハマグリとアサリを撒いているとのことでした。潮干狩りの入場料は、昨年同様に2,000円（制限重量：2kg）でした。

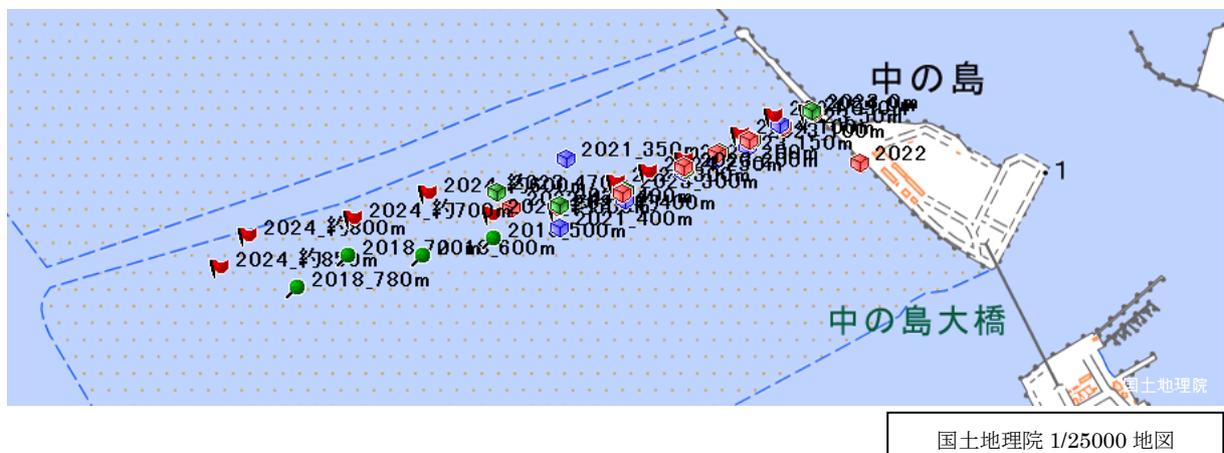
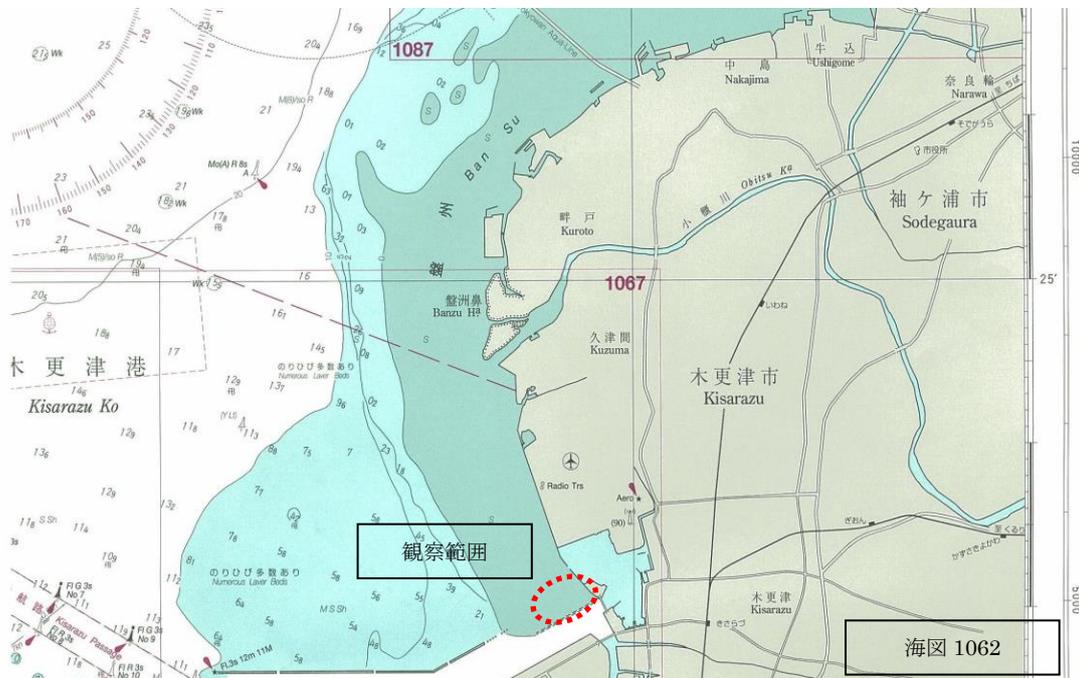


図-1 観察の範囲と観察地点（赤旗箇所、拡大図別添）

【当日の実測潮位と気象海象の状況】

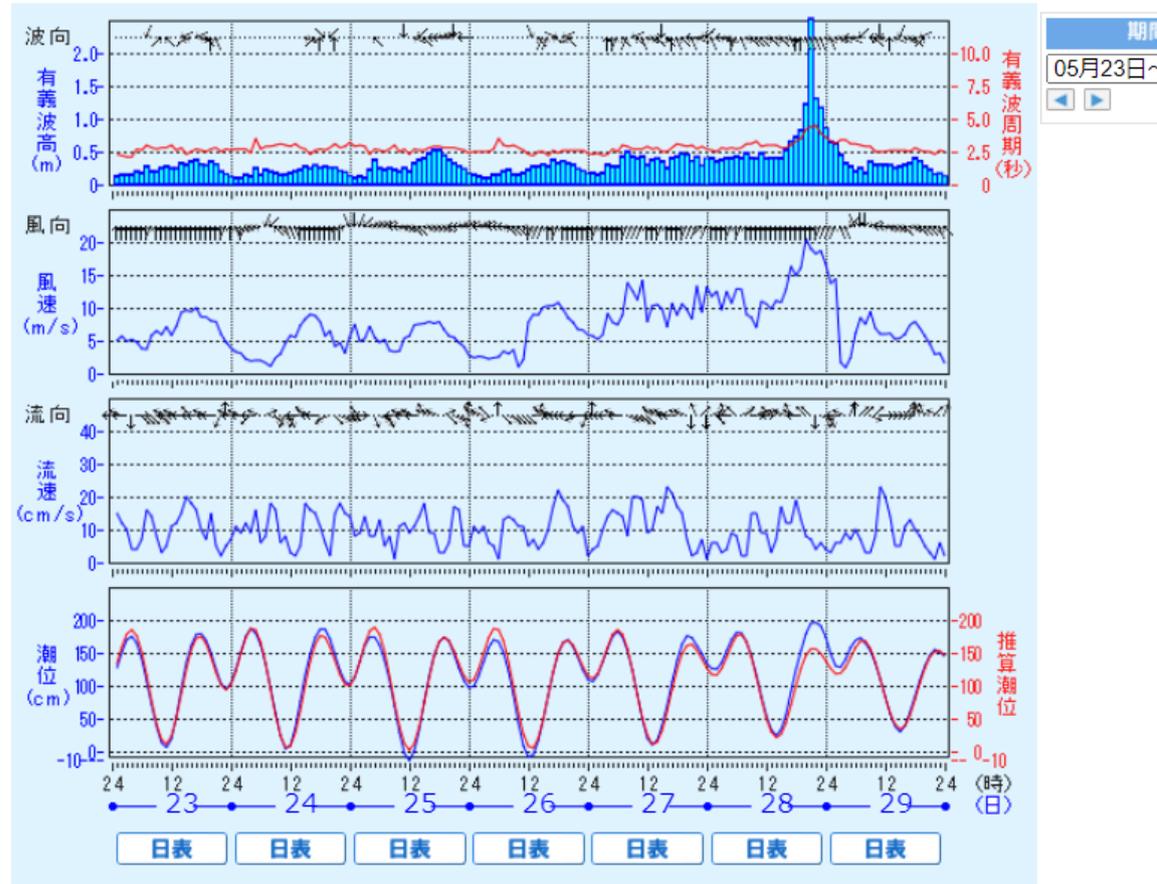
例年、観察日は気象庁の潮位表を確認して潮がよく引く大潮期に設定します。

当日の干潮予定時刻（木更津）は、10:40 でした。潮位実測データ（東京都港湾局）は図-2に示したとおりであり、推算潮位で見込まれたのと概ね同程度に潮が引いておりました。

（実測データは東京港内で木更津は多少離れておりますが、その傾向は概ね同様でしょう。）

観測期間：2024年05月23日～2024年05月29日

観測地点：東京港波浪観測所



<http://micos-sa.jwa.or.jp/metro/tokyop/topframe.htm>

観測期間：2024年05月23日～2024年05月29日

観測地点：東京港波浪観測所

図-2 実測潮位等の経時変化（東京都港湾局の観測データ）

【概況】 潮干狩り場の囲い柵の外側を、岸から沖方向へ約 850m まで観察しました。アサリは全般に観察され、500mあたりでは比較的多い箇所があり、そこにはシオフキガイがいました。

アサリについて特筆すべき状況は、最も沖合の約 850m 地点においてもアサリが確認出たことです。2012年から6回目の観察で、初めてアサリを確認しました。これまでとの違いは底質で、貝殻の混入が少なく、硬くしまっておらず柔らかい砂質であったことです。その他は、全般に稚貝があまり観察されなかったことです。

シオフキガイ、バカガイの出現は400m~500mで少々、マテガイは確認できませんでした。

コアマモとアマモは、これまでと同様に群落を形成して繁茂していました。

潮干狩り場（囲い柵の内側）には、アサリ、ハマグリが放流されていて、撒かれたであろう箇所には、まとまってたくさんいました。ハマグリはアサリよりも潜砂が浅いと感じました。

【干潟の状況】 中の島公園に渡る橋から見た干潟遠景です。



【潮干狩り場】 最干潮時刻の 1 時間 20 分前の潮干狩り場、お客さんはまばらでした。



潮干狩り客の獲物は、ハマグリとアサリ。数人から写真を撮らせていただきました。大量のアカニシは、潮干狩り場外で北側の濤の土留め矢板のあたりだそうで、地元の人のような様子でした。



☆生物の出現状況（観察ライン）

【岸寄り、護岸付近】 護岸付近にはアナアオサ、ヨシ等の漂流物はなく、底質は貝殻が混じる歩きやすい砂地で、硫化水素臭（卵の腐ったような臭い）は、しませんでした。熊手で掻くとアサリ、アラムシロガイを確認しました。アサリの稚貝は見かけませんでした。少し沖からは所々にクロムシ（タマシキゴカイ）の糞塊が見られました。



【岸から 50m 付近】 砂泥質でクロムシ（タマシキゴカイ）の糞塊が多く見られ、コアマモもありました。熊手ではアサリ等の二枚貝類は、確認できませんでした。



【岸から 100m 付近】砂泥質でクロムシ（タマシキゴカイ）の糞塊が多く見られ、コアマモもありました。熊手ではアサリを少々確認しました。



【岸から 200m 付近】熊手ではアサリが少々、篩いがけではアラムシロガイ、アサリ、エビジャコを確認しました。



【岸から 250m】熊手と篩いがけでアサリ、キサゴ、アラムシロガイを確認しました。



【岸から 300m】熊手と篩いがけで、アサリ、キサゴ、アラムシロガイを確認しました。コアマモも目に付くようになりました。





【岸から 400m】熊手と篩いがけで、アサリ、シオフキガイ、バカガイ、キサゴ、アラムシロガイを確認しました。コアマモは群落状態で出現しました。





【岸から 500m】熊手と篩いがけで、アサリ、シオフキガイ、キサゴ、アラムシロガイを確認しました。コアマモ群落が繁茂していました。アサリが比較的多い箇所もありました。



【岸から 600m】この辺りはコアマモとアマモの群落に囲まれていました。水深は 15cm 位で、熊手と篩いがけでアサリ、キサゴ、アラムシロガイを確認しました。



【岸から 700m】アマモが散在していました。熊手と篩いがけでアサリ、キサゴ、アラムシロガイを確認しました。



【岸から 800m】 干出した場所にはアマモが散在していました。熊手と篩いがけでアサリ、キサゴ、アラムシロガイ、エビジャコを確認しました。底質は比較的柔らかい砂質でした。



【岸から 850m】アマモが散在していて、熊手と篩いがけでアサリ、キサゴを確認しました。砂地でしたが、熊手が入りにくいような硬くしまった砂地ではありませんでした。
干潟縁辺部の干出箇所を観察は、2012年、2013年、2015年、2018年、2019年と限られたものですが、これまでには、アサリをこの辺りで見かけることはありませんでした。



【潮干狩り漁獲物】

潮干狩り場の外では観察を行い、持ち帰る漁獲物は潮干狩り場内です。ハマグリとアサリは、潮干狩り用に撒くので、居るところには比較的固まっているものです。たまたま、そんな場所を探り当てたので、短時間に沢山とることが出来ました。比較的大きめのものを選んで、持ち帰りはハマグリ、アサリ半々でした。平均重量は、ハマグリが 20g/個、アサリが 6g/個でした。



いずれもおしくいただきました。ハマグリはお吸い物の他、殻から外した身を醤油で甘辛く煮たら、柔らかくて良いつまみとなりました。



以上です。

